

日本産業教育学会第54回大会

プログラム

－目 次－

| | | |
|---------------------------|-------|----|
| 1. 日本産業教育学会第54回大会要項 | ----- | 1 |
| 2. 特別企画 | ----- | 3 |
| I. 若手研究者のためのラウンドテーブル | | |
| II. 実務家・教員の第二のキャリアを考える交流会 | | |
| 3. 自由研究発表 | ----- | 5 |
| 分科会 A：キャリア教育・発達 | | |
| 分科会 B：高校職業教育・専門学校研究論 | | |
| 分科会 C：専門学校・コミュニティ・カレッジ | | |
| 分科会 D：企業内教育 | | |
| 分科会 E：普通教育における技術教育・進路指導 | | |
| 分科会 F：総合学科と海外の職業教育訓練 | | |
| 分科会 G：中等後職業教育 | | |
| 分科会 H：技術者・技能者養成における企業と公共 | | |
| 4. 専門部会 | ----- | 13 |
| 職業指導・進路指導部会 | | |
| （日本キャリア教育学会との合同企画） | | |
| 高校職業教育部会 | | |
| 専修学校部会 | | |
| 企業内教育部会 | | |
| 5. 見学会 | ----- | 14 |

1. 産業教育学会第54回大会要項

(1) 期日と会場

| | |
|----------------|-------------------------|
| 2013年10月26日(土) | 名古屋大学工学部 I B 電子情報館 大講義室 |
| 10月27日(日) | 名古屋大学全学教育棟 |
| 10月28日(月) | オーエスジー株式会社八名工場 |

(2) 受付

大会第1日目(10月26日)は、I B 電子情報館2階、大講義室前のラウンジで行います。

大会第2日目(10月27日)は、全学教育棟本館1階、学生ホール付近で行います。

参加費

| | 種別 | 事前登録 | 当日受付 |
|---------------|-------------------------------------|-------|-------|
| 大会 参加費 | 会員 | 3500円 | 4000円 |
| | 一般 | 4500円 | 5000円 |
| | 院生・学生 | 2500円 | 3000円 |
| 懇親会費 10/26 | 会員・一般 | 5000円 | 6000円 |
| | 院生・学生 | 4000円 | 5000円 |
| 弁当代 | 10/27(日) 1000円(お茶付き)、事前申し込みのみ、当日不可。 | | |
| 見学会 | 参加費(バス代)3000円/人。名古屋駅前から出発の予定。 | | |

(3) 研究発表

- ①個人発表・共同研究発表とも、1件の持ち時間は25分ですが、これにはパソコン操作などの発表準備と発表者交替の時間が含まれます。準備時間も含め発表18分、質疑5分、交替時間を2分とします。また各分科会ともすべての発表・質疑終了後、総括討論を行います。
- ②自由研究発表会場では、経過時間を知らせるために、ベルを鳴らします。13分で1鈴、18分で2鈴、23分で終了の3鈴の合図を鳴らします。
- ③発表辞退者が生じた場合でも、発表時刻及び発表順序の変更は行いません。
- ④研究発表用の配布資料等は、各自が必要部数(40部以上)を持参して下さい。資料の事前送付は、トラブルのもとになりますからご遠慮下さい。
- ⑤発表者は、開始時刻10分前に会場に入り、プロジェクター使用などについて、確認して下さい。

データはUSBメモリーに入れて、持参して下さい。

Macパソコンの方は、Macノートパソコンを持参して下さい。

ノートパソコンを持参される場合、プロジェクターとのRGB接続端子があることを確認して下さい。

⑥要旨集を追加で注文される方は、事前登録用紙(大会ホームページ)にて申し込んで下さい。キャリア教育学会の要旨集も注文できます。

(4) 懇親会

第1日目(10月26日)の夕方、18時20分～20時20分(予定)、学内の南部食堂で行います。

(5) 理事会

第1日目(10月26日)、11時20分～12時20分まで、全学教育棟1階、C11室にて開きます。日本産業教育学会理事の方はお集まり下さい。

(6) 総会

第1日目(10月26日)、16時15分～17時15分まで、全学教育棟1階、C14室にて開きます。日本産業教育学会会員の方はお集まり下さい。

(7) 昼食

第2日目(10月27日)の弁当を事前に予約された方は、学内の南部食堂でおとり下さい。

(8) 本部・控室等

大会本部並びにクロークはC12室です。

(9) 連絡先

日本産業教育学会第54回大会実行委員会事務局

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 職業・キャリア教育学研究室 寺田盛紀

〒464-8641 名古屋市千種区不老町 (TEL/FAXは不可)

石田正治(実行委員長代理) e-mail: 94taikai@gmail.com, ishida96@tcp-ip.or.jp

Tel: 090-7318-5524 (石田・緊急時のみ)

2. 特別企画

I. 若手研究者のためのラウンドテーブル：研究活動の輪を広げよう 「これからの産業教育学研究における研究課題の検討」

10月26日（土）17:15～18:15

全学教育棟本館・C10室

司会者：京免徹雄（郡山女子大学・短期大学部）

報告者：瀧本知加（東海大学）、柴沼俊輔（東京学芸大学大学院）

コメンテーター：植上一希（福岡大学）

〈企画の趣旨〉

技術の革新や経済のグローバル化の進展、雇用環境や若者の変化への対応など産業教育を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、実践の現場では常に新しい事象への対応が求められている。また、隣接する他の学問領域においても、常に新しい理論や研究方法論が生み出されている。このことに鑑みれば、産業教育に関する研究に従事する者には、産業教育を取り巻くその時代の課題を的確にとらえ、他の学問分野の動向を把握し、新たな研究課題を設定し、それに応じた新たな研究方法を試行することが求められよう。既存の研究枠組みに囚われず、新しい研究課題に取り組むことは、特に研究キャリアの浅い、いわゆる若手研究者に期待されるところが大きいだろう。

若手研究者がその創造性を発揮して新しい研究課題に挑戦し、有益な研究成果を上げるためには、若手研究者が互いの研究について交流を持ち、切磋琢磨することが重要である。しかしながら、現在、若手研究者同士の相互交流は、個人的なつながりに依存している部分が大きいように思われる。

このような問題意識に立ち、企画者は学会誌面上での若手研究者の交流の場として、『産業教育学研究』第42巻2号より、「活動のわ」新設し、これまで3名の研究者が自身の研究について語る場を設けてきた。第42巻2号では、石嶺が共同研究として取り組んだ短期大学におけるキャリア教育に関する研究について紹介した。第43巻1号では、瀧本知加会員が、「青年期職業教育という『問い』との出会い」として、自身の教育活動・研究活動から見えた課題について論じた。43巻2号は京免徹雄会員、44巻1号では阿部英之助会員が執筆を担当する予定である。

このような取り組みは、若手研究者の研究活動の輪と和が広がるきっかけとし非常に有効であるが、交流媒体の性質上、双方向的なコミュニケーションを望むことは難しい。そこで、本ラウンドテーブルを企画し、若手研究者の相互交流、特に研究活動に関する交流を図ることを企図する。

※企画の詳細については、下記の大会WEBサイトにアクセスして下さい。

http://www.tcp-ip.or.jp/~ishida96/jssvte/jssvte-2013_special.html

Ⅱ. 実務家・教員の第二のキャリアを考える交流会

－東海・北陸地区部会、名古屋産業教育研究会共催－

10月26日（土）17:15～18:15

全学教育棟本館・C111室

コーディネーター：斎藤修啓（金城大学）

報告者：上野久美雄（三重県立四日市工業高等学校）、牧野正人（中部大学）

〈企画の趣旨〉

この交流会は、一般の研究発表としてはなかなか取り上げにくいと思われる、①実務者の定年前・定年間際の転身、再就職の事柄について、また、②教員の再雇用や再就職の事柄について、2名の報告者からの話題提供をもとに、ラウンドテーブル形式で意見交換を行うものです。

私たちは学問や科学の対象として、あるいは職務の内容として産業教育やキャリア教育を扱うわけですが、それらは私たち自身の生き方とも関わる実際的な課題を内包しています。たとえば、人事あるいは人材育成を担っている企業の実務者は、一方で自分自身のキャリアについても考える必要があります。その実務者は、どのようにキャリアを形成していけばよいのでしょうか。

研究部会の話題にも取り上げられている「2007年問題」は、学校教育の現場にも当てはまる事象です。熟練教員の退職がそれに該当します。たとえば、専門学科を担当する教員が育んできた経験知を学校や後任の教員へどのように伝え残していくのかという課題があるでしょう。

参加者が、自分自身のキャリア形成を振り返る場として、そして報告者の経験談に含まれている転機への対処の有り様などを参考に、キャリアの転機を迎え・乗り越えるために必要な要件などを考える機会にしたいと思います。

5. 自由研究発表

【分科会 A：キャリア教育・発達】

10月27日（日）10:00～12:00

全学教育棟本館・C10室

司会：三村隆男（早稲田大学）

- 10:00～10:25 A-1 ICT活用と異能力
金山茂雄（拓殖大学）
- 10:25～10:50 A-2 社会人基礎力を指標としたキャリア教育による自己成長への意識づけ
－芝浦工業大学デザイン工学部におけるキャリア教育の事例－
太田悠介（芝浦工業大学大学院）
- 10:50～11:15 A-3 キャリア科目授業による進路選択に対する自己効力育成の検討
－大学1年生の効力感低位群に着目して－
木村節子（筑波大学大学院）
水上勝義（筑波大学大学院）
- 11:15～11:40 A-4 キャリア授業の効果測定に関する一考察
小里千寿（芝浦工業大学）
- 11:40～11:50 総括討論

【分科会 B：高校職業教育・専門学校研究論】

10月27日（日）10:00～12:00

全学教育棟本館・C111室

司会：吉岡いずみ（京都橘大学）

- 10:00～10:25 B-1 高校福祉科生徒の修学継続困難に関わる要因
－A 県福祉科生徒の学業適応調査を基に－
後藤 静（愛知県立海翔高校）
- 10:25～10:50 B-2 韓国における高校技術・家庭科目の創意工学設計授業
方案研究
金 永鐘（金沢工業大学）
金 聖一（世翰大学校）
李 昭伊（忠南大学校）
- 10:50～11:15 B-3 専門学校教育研究の枠組み構築にむけて（1）
－制度論的観点の批判的検討－
瀧本知加（東海大学）
- 11:15～11:40 B-4 専門学校教育研究の枠組み構築に向けて（2）
－職業的社会化の観点から－
植上一希（福岡大学）
- 11:40～11:50 総括討論

【分科会 C：専門学校・コミュニティ・カレッジ】

10月27日（日）10:00～12:00

全学教育棟本館・C20室

司会：稲永由紀（筑波大学）

- 10:00～10:25 C-1 美容師のキャリア形成と養成教育に関する研究
－専門職団体による関与の視点から－
竹井沙織（名古屋大学大学院）
- 10:25～10:50 C-2 アメリカにおけるハイスクールとコミュニティ・カレッジの接続
－ケンタッキー州の取り組みを手がかりに－
西 美江（関西女子短期大学）
- 10:50～11:15 C-3 専門学校の機能分化についての研究
－コミュニティ・カレッジ化する専門学校－
上田勝江（大阪大学大学院）
- 11:15～11:40 C-4 専門学校における国家資格・民間検定の有用性に関する考察
－機関アンケートとインタビュー調査より－
渡邊和明（精華女子短期大学）
- 11:40～11:50 総括討論

【分科会 D : 企業内教育】

10月27日(日) 10:00～12:00

全学教育棟本館・C21室

司会：谷口雄治(職業能力開発総合大学校)

- 10:00～10:25 D-1 郡是の品質管理教育と従業員の帰属意識
田中卓也(共栄大学)
- 10:25～10:50 D-2 企業内英語教育の時代的特徴と展開
岩田京子(中村学園大学短期大学部)
- 10:50～11:15 D-3 自治体職員教育におけるOJTに関する一考察
— 一定期間における学習過程の分析から —
鬼頭文隆(名古屋大学大学院)
- 11:15～11:40 D-4 企業内訓練校におけるトレーナーの調達・活用方式の
特徴と効果
— 自動車産業企業12社の事例分析 —
島内高太(拓殖大学)
- 11:40～11:50 総括討論

【分科会 E：普通教育における技術教育・進路指導】

10月27日（日）13:00～15:00

全学教育棟本館・C10室

司会：佐藤史人（和歌山大学）

- 13:00～13:25 E-1 中学校技術科教育における技能教授を重視した授業の
形成過程と教育目的との関連
坂田桂一（東京学芸大学大学院）
- 13:25～13:50 E-2 中学校技術科「生物育成」の授業で教えること
－窒素循環・炭素循環－
内田康彦（東京都荒川区立第九中学校）
- 13:50～14:15 E-3 阿部七五三吉の手工科教育論に関する一考察
平館善明（帯広畜産大学）
- 14:15～14:40 E-4 旧制中学校卒業生の進学・就職について
－長野県長野中学校を事例に－
烏田直哉（東海学園大学）
- 14:40～14:50 総括討論

【分科会 F：総合学科と海外の職業教育訓練】

10月27日（日）13:00～15:00

全学教育棟本館・C111室

司会：広瀬 信（富山大学）

- 13:00～13:25 F-1 総合学科生徒の生活体験に関する考察
ー進路指導の視点からの生活体験達成指数の分布及び未体験率の分析ー
湯尾慎一（芦屋大学）
吉田隆夫（芦屋大学）
- 13:25～13:50 F-2 静岡県における「総合学科」に対する生徒・職員の意識
水島啓信（静岡県立小笠高等学校）
- 13:50～14:15 F-3 北欧における新たな職業教育・訓練制度の試みについて
ースウェーデン・フィンランド・ノルウェーの調査からー
沼口 博（大東文化大学）
横山悦生（名古屋大学）
- 14:15～14:40 F-4 ドイツ生産学校運動の新展開
ー学校から労働社会への移行促進への展開ー
大串隆吉（首都大学東京）
- 14:40～14:50 総括討論

【分科会 G : 中等後職業教育】

10月27日(日) 13:00～15:00

全学教育棟本館・C20室

司会：堀内達夫(大阪市立大学)

- 13:00～13:25 G-1 短大・専門学校卒業生のキャリア形成と学校評価
－職業実践的な教育に注目して－
吉本圭一(九州大学)
- 13:25～13:50 G-2 短期大学における課題解決型学習の現状と課題
－短大と地域自治体の連携によるパソコン教室を事例として－
石嶺ちづる(自由が丘産能短期大学)
- 13:50～14:15 G-3 保育・幼児教育分野の養成課程の現状
－4年制大学と短期大学の比較－
豊田和子(桜花学園大学)
- 13:25～13:50 G-4 企業の考える実践的教育について
－学校法人ホンダ学園と国立工業高専の比較検討から－
片山勝己(放送大学、マツダ株式会社)
- 14:40～14:50 総括討論

【分科会 H：技術者・技能者養成における企業と公共】

10月27日（日）13:00～15:00

全学教育棟本館・C21室

司会：新井吾朗（職業能力開発総合大学校）

- 13:00～13:25 H-1 東京府立職工学校と企業内職工養成の「適材教育」に関する研究
－その成立の論理と特徴－
坂本学之（名古屋大学大学院）
- 13:25～13:50 H-2 「技術者継続教育」は『技術継承』に通じる
－そして『技術継承』が“科学技術立国”に繋がる－
木村正彦（ケイテック株式会社）
- 13:50～14:15 H-3 国際競争力をもって我が国産業教育を斬る
－日本産業の復活・復興を願い－
櫻井博行（（独）高齢・障害・求職者支援機構）
- 13:50～14:15 H-4 公共職業訓練の再編と新たな展開
永田萬享（福岡教育大学）
- 14:40～14:50 総括討論

6. 専門部会

10月27日（日）15:15～17:15

【職業指導・進路指導部会（日本キャリア教育学会との合同企画）】

全学教育棟本館・C21室

- コーディネーター：三村隆男（早稲田大学）
- テーマ：コミュニティ・スクールを活かしたガイダンスの機能の可能性
シンポジスト：曾田耕一（直東学園学校運営協議会事務局長）
上野裕文（上越市立直江津東中学校長）
京免徹雄（郡山女子大学短期大学部）
宮古紀宏（早稲田大学）

職業指導・進路指導部会では、日本キャリア教育学会の合同企画としてシンポジウムを企画する。

コミュニティスクールにおいて、これまでは学校運営協議会などの組織やカリキュラム開発に関する研究は進められてきたが、ガイダンスの機能の充実といった児童生徒の自立に直結する実践に迫った研究は少ない。本企画では、平成24年度からコミュニティスクール事業を開始した新潟県上越市をフィールドに実施した調査をもとに、ガイダンス機能の在り方、特にキャリア教育や生徒指導の展開について検討する。さらに、コミュニティスクールの運営にあたった関係者等をシンポジストとして招き、コミュニティスクールを活かしたガイダンスがもたらす固有の教育的効果に迫りたい。

【高校職業教育部会】

全学教育棟本館・C20室

- コーディネーター：佐藤史人（和歌山大学）、丸山剛史（宇都宮大学）
石田正治（愛知県立豊川工業高等学校）

- テーマ：高校における福祉教育の実践と課題

本部会では、これまでに高校における工業・農業・商業教育を3回に渡り取り上げてきました。今回は、高校における福祉教育の実践と課題について、高校教育現場の実践者、研究者にそれぞれの立場からご報告・ご提言をいただき、参加の皆様と一緒に討論を深めたいと考えています。これまでの議論では、それぞれの分野の専門教育の内容、すなわち教育課程や授業内容の特徴、あるいは専門教育を施した成果としての進路状況などが論点となってきました。福祉教育は介護福祉士など介護職の資格取得と関わって、高校教育の論理や枠組みだけでは成り立ち得ない独自の課題を抱えています。これまでの共通の論点に加えて、福祉教育に固有の問題についても取り上げていきたいと思えます。福祉教育にご関心のある方はもちろん、多くの方のご参加を得て、高校職業教育の一環として福祉教育を論議できるものと期待しています。

シンポジスト

- ・瀧本知加（東海大学 熊本教養教育センター）：

「高等学校における福祉教育と介護職養成の現状と課題」

- ・有本 翼（大阪府立西成高校）
- ・名原伸子（和歌山県立有田中央高校）

【専修学校部会】

全学教育棟本館・C10室

■コーディネーター：平田真一（学校法人第一平田学園）

■テーマ：専門学校への質の保証に向けて

1. シンポジウム「職業実践専門課程と学校評価」

来年度より新たに創設される「職業実践専門課程」と専門学校の取り組みについて、下記のメンバーにより討論を行う。

吉本圭一（九州大学）

「高等教育の立場からの視点として」

岡本比呂志（学校法人中央情報学園）

「専門学校における制度設計の立場からの視点として」

古賀稔邦（日本電子専門学校）

「教員研修の立場からの視点として」

2. 事例発表

「動物看護師公的資格化と専門学校の取り組み」

坂元祥彦（宮崎ペットワールド専門学校）

【企業内教育部会】

全学教育棟本館・C11室

■コーディネーター：沼口 博（大東文化大学）

■テーマ：企業における教育・訓練のあり方

シンポジスト：矢口哲郎（一般財団法人能力開発工学センター）

2007年問題に象徴された、製造業を中心とした熟練社員の大量退職は、安定した生産の維持、管理と技術・技能伝承の重要性を認識させることになった。この課題は2007年以降も引き続きわが国の製造業で大きな課題となっており、特に若年労働者に対する教育・訓練の問題として関心が寄せられている。今回はいくつかの企業の事例をもとに教育・訓練のあり方を中心に検討してみたい。

7. 見学会

(1) 見学先

オーエスジー株式会社 八名工場

〒441-1335 愛知県新城市富岡字赤岩 50-5

TEL：(0536) 26-1411

※切削工具「タップ」の製造ライン見学と人材開発についての解説。

(2) 集合日時・場所 日時: 10月28日(月) 8時20分

集合場所:名古屋駅太閤通口(新幹線側の出口)前のバス停車場

(3) 参加費：交通費(バス代)として、3000円/人

(4) 参加申込 別紙、参加登録用紙に、参加希望の旨御記入ください。